

創作童話を保育内容に発展させた意義について (第3報)

箕 浦 志 保

(学が丘保育園)

『は じ め に』

本研究は、日本保育学会第38回・39回大会からの継続研究である。

生活環境や社会状況の急激な変化の中で育つ最近の子ども達の心に素朴な夢や感性を育てようと考え、「手づくりのぬくもりある保育」に取り組んだ。先ず創作童話の中に自然の豊かさ、動物とのたわむれ、お年寄りのひざのぬくもり等を盛り込み、毎年1冊ずつ手づくり絵本に仕上げ、それを元に体験活動を通して年間保育内容に発展させていった。

昭和59年「あかいほっぺのポポ」(手づくり絵本)

昭和60年「ちちうしミューとコッコ」(手づくり絵本)
「創作童話を生かした夢のある保育」(実践集)

昭和61年「おねしょぬまのぼうけん」(手づくり絵本)
「創作童話を生かした夢のある保育(続編)」
(実践集)

昭和59年・60年と保育園独自の内容で保育を積み重ねてきた結果、想像していたより子どもの姿が明るく変化し、素朴な夢、やさしさやいたわりの心が育ってきたと同時に88%の保護者が、保育内容により理解を示した。その声を取り上げると、「子どもの持つ素朴な夢をつみとらないで一貫性ある保育に大いに感動する」また「創作童話を通して夢のある話がいっぱい広がり、子どもとの会話も以前より増えた事で、親子のふれ合いが良くなった」と感想を述べていました。

これらが自信となって、さらに61年度は「おねしょぬまのぼうけん」に取り組むことにした。

そこで、本園児がどの程度、「おねしょ」と「いじめ」の体験をしているか、また小動物を見たり触れたりする環境にあるかを知るために、幼児95名を対象に保護者にアンケート調査をした。

● おねしょをしますか	よくする	9.5%
	ときどきする	35.5%
	しない	55.0%
● いじめられた経験がありますか	よくある	5.5%
	ときどきある	53.2%
	ない	41.3%
● 小動物を飼っていますか	飼っている	16.2%

この調査の結果、おねしょをする子が45%と半数近くもあり、いじめられた経験のある子が58%強と半数以上となり、小動物を飼っている家庭が、わずか16%と制約されていることがわかりました。それら3つの問題を盛り込みストーリーをつくった。子どもなら一度は経験ある「おねしょ」を取り入れ、「おねしょ沼」へと夢を発展させ、子どもの大好きな小動物と充分遊ぶ中で、勇気を持ち、いじめられても頑張る力を育てるのをねらいとし、一年間の保育内容に発展させました。

『保育の効果』

- 小動物との出会いの中で、ザリガニやかえるに初めて対面し、手を出しては引っ込めていた子もハサミの大きさを比べたり、すもうをとらせるなど興味を示した。
- 今まで糸を結ぶと言う経験の少ない子も釣り糸にザリガニの好物である竹輪やすめを真剣な表情で結び集中する力や手先が器用になった。やがて、期待に胸をはずませ釣りに出かけ、釣れた時のあの歓声に驚かされた。体験した直後、画用紙に伸び伸びとザリガニの絵を描いていた。
- 手づくり絵本の製作では色画用紙を切ったり貼ったり、こまかい部分まで器用にハサミを使い、協力することの大切さや完成の喜びを味わった。
- 運動会では創作童話をリズム表現にして園庭せましと躍動した。「いじめ」の部分は話し合いを重ね、自由あそびの中から取り入れたのでスムーズに表現できた。みんなで作った歌や曲を口ずさみ、手づくりのぬくもりが伝った。
- 体験したことを絵画・造形に表現することによって考えたり工夫する力が養われ、意欲的にとりくむ姿が見られるようになった。

『お わ り に』

3年間にわたり、「手づくりのぬくもりある保育」を進めて来た結果、子どもの成長はもとより職員と保護者間の協力と信頼が育って来たことは、何ものにも換えがたい喜びと言えましょう。

今後、子ども達を取り巻く環境がいかに悪化しようとも、私達保育者集団は、子どもをしっかり見つめ、子どもに感性を願う前に先ず保育者自身が感性を養い、人間性豊かな保育者になることが大切だと思いました。

おねしょぬまのぼうけんの1年間の保育計画(4・5歳)

